

科目名	国際経済学Ⅱ	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済	学科	□ 必修 ■ 選択
				学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	International Economics Ⅱ	開講年次	□ 1 年 ■ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	さかもと こういち	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	坂元 浩一	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	国際経済学の政策を学ぶ				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。				
授業概要	本講義は国際経済学Ⅰを踏まえて開講されます。国際経済取引の主な構成要素の続きとして、外国直接投資や証券投資の理論を中心に説明します。その後、国際マクロ経済学としての I S－LM 分析による理論を説明します。そして、国際経済の歴史と制度・政策を扱います。 さらに、日本に加えて他の事例国を挙げて説明します。証券投資については、別の科目である国際金融論で詳しく扱うので、本講義では基本的な内容となります。教員が訪問した国における実体験も交えながら、解説します。				
授業計画					
第1回	イントロダクション（主な内容、アプローチ）				
第2回	外国直接投資（FDI）（基礎事項とトレンド）				
第3回	外国直接投資（FDI）（理論）				
第4回	外国直接投資（FDI）（制度と政策）				
第5回	外国直接投資（FDI）（事例）				
第6回	金融の基本				
第7回	証券投資（基本のみ。詳細は国際金融論で扱う）				
第8回	国際経済・金融制度と政策				
第9回	開放マクロ経済学Ⅰ （IS - LM 分析）				
第10回	開放マクロ経済学Ⅱ （理論）				
第11回	開放マクロ経済学Ⅲ （政策の効果）				
第12回	事例国： 先進工業国				
第13回	事例国： 中国など新興国				
第14回	事例国： 東南アジアなど発展途上国				
第15回	事例国： 貧困国（アフリカなど）				
第16回	定期試験				

授業時間外の学習	1. 授業で紹介する情報や課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件 受講のルール	国際経済学Ⅰを受講している方が望ましいです。 ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。理論中心の授業ですので、図や表、そして統計を論理的に理解するつもりで受けてください。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論―総理解から次の一歩まで―』(電子書籍)大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機―歴史とフィールドからの検証―』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル―発展途上国への実践的接近法―』頸草書房、1996年。 Sakamoto Koichi (坂元), <i>Japan and China: A Contest in Aid to Sub-Saharan Africa</i> , World Scientific, 2018. (日本と中国: サハラ以南アフリカへの援助の競争)
成績評価の方法	【レポート・小テスト(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するために授業中に行うミニ・テストも評価に含めます。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、木曜日 14時～15時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると考えます。